

## マインツ大学 Germersheim 応用言語・文化学科

設立は 1947 年で当時のフランス占領軍司令部の指令による。1949 年にマインツ大学に統合。1992 年以降現在の名称となる。

### 言語

アラビア語 中国語 ドイツ語 英語 フランス語 イタリア語 ギリシア語  
オランダ語 ポーランド語 ポルトガル語 ロシア語 スペイン語  
(以上に加え、事情によっては次の言語も可能 デンマーク語 フィンランド語  
アイスランド語 日本語 クロアチア／セルビア語 ラトビア語 ノルウェー語  
スウェーデン語 チェコ語 トルコ語 本学科で常時開設していない少数言語については、必要に応じて語学センターで集中的に学ぶことができる。)

外国語 2 ヶ国語以上、補完科目 1 科目以上を選択して 9 学期間の学修後に翻訳ディプロームないし通訳ディプロームの資格を得る。

特に力を入れている研究領域：翻訳教授法、翻訳の心理プロセス、評価、専門用語翻訳、異文化相互行為としての翻訳、電子技術の応用、文学の翻訳

### 施設

通訳室 3 (ブース席 34)

ビデオ会議システム 無線赤外線システム、16 チャンネル装置(15 言語への通訳が可能)

この他に講堂に 10 のブース席

専属の語学装置技術者を複数擁する

映像室(20 席) 語学ラボ(55 席)

### 異文化コミュニケーション能力センター

本学科付設の社会人教育センター。既に職業人である翻訳家を対象に、コンピュータを利用した翻訳、ウェブリサーチ、ソフトウェアの地域言語化、ハイテク記事の翻訳、メディア翻訳(字幕・吹き替え)等の教育をする。

その他外国人学生や社会人を対象にした4週間の夏期コース、会議通訳者を対象にしたドイツ語表現力向上のためのコースなどが本研究科主催で行なわれている。

また次のような目的別のプロジェクトチームが置かれている。

専門用語研究

通訳教授法

翻訳プロセスの認知科学

ラテンアメリカ研究

スコットランド研究

データベース「ジェンダーと翻訳」

入学資格

一般的な大学入学資格に加え、英語とフランス語の知識があること

学修課程

モジュールシステムを採用。テーマが関連する授業をまとめてモジュールとし、学生に選択させる。

	基礎課程	進級試験	専門課程	試験学期	資格
翻訳コース	4学期(共通)		4学期	1学期	翻訳ディプローム
通訳コース			4学期	1学期	通訳ディプローム

A 言語：母語

B 言語：完成の域に近い能動的運用能力のある言語

C 言語：完成の域に近い受動的理解能力のある言語

D 言語：さらに完成度を高める余地のある言語

各言語共通科目領域

異文化コミュニケーション：文化による知覚、コミュニケーション、行動の違いを取り扱う 企業、官庁、婚姻、家族などにおける文化のミクロコスモス

一般言語学・文化科学

## 補完科目

法学 経済学 技術 医療 情報処理 の中から 1～3 科目を選択  
(関連組織、企業体等への訪問含む)

## 外部から講演者を招いての会議通訳

## 基礎課程

### 第 1 外国語(B 言語)

外国語 I、II

文化事情

言語学・翻訳学

翻訳( $B \rightarrow A$ 、 $A \rightarrow B$ )

### 第 2 外国語(C 言語)

外国語 I、II

言語学・翻訳学・文化事情

翻訳( $C \rightarrow A$ )

## 専門課程

### [翻訳コース]

### 第 1 外国語(B 言語)

文化事情

言語学・翻訳学

翻訳(一般テキスト  $B \rightarrow A$ 、 $A \rightarrow B$ 、専門テキスト  $B \rightarrow A$ 、 $A \rightarrow B$ )

### 第 2 外国語(C 言語)

言語学・翻訳学・文化事情

翻訳(一般テキスト  $C \rightarrow A$ 、専門テキスト  $C \rightarrow A$ )

### [通訳コース]

### 第 1 外国語(B 言語)

文化事情

言語学・翻訳学

通訳 I、II、III

## 第2外国語(C言語)

文化事情

言語学・翻訳学

通訳 I、II、III

### 進級試験

一般的テキストの翻訳( $B \rightarrow A$ 、 $A \rightarrow B$ )

一般的テキストの翻訳( $C \rightarrow A$ )(ドイツ語をB言語にしている学生は $C \rightarrow B$ ないしは $B \rightarrow C$ )

各 120 分(計 360 分)

B言語で書かれた言語学・翻訳学に関するテキストにつき 30 分の口述試験

### 資格取得試験

[翻訳コース]

#### 1) 補完科目についての試験

筆記試験 (180 分) 口述試験 (30 分)

#### 2) 第1外国語(B言語)及び第2外国語(C言語)についての試験 (筆記試験は各 180 分計 18 時間)

一般的テキストの翻訳 ( $B \rightarrow A$ 、 $A \rightarrow B$ )

専門的テキストの翻訳 ( $B \rightarrow A$ 、 $A \rightarrow B$ )

一般的テキストの翻訳 ( $C \rightarrow A$ )(ドイツ語をB言語にしている学生は $C \rightarrow B$ ないしは $B \rightarrow C$ )

専門的テキストの翻訳 ( $C \rightarrow A$ )(ドイツ語をB言語にしている学生は $C \rightarrow B$ ないしは $B \rightarrow C$ )

文化事情に関する口述試験 (B言語にて 30 分)

B言語で書かれた言語学・翻訳学に関するテキストをその場でA言語に口述で訳す (10 分)

C言語に関して文化事情及び言語学・翻訳学の口述試験 (ドイツ語にて 20 分)

#### 3) 資格取得論文 (テーマ登録より 4 ヶ月以内に提出)

[通訳コース]

1) 補完科目についての試験

筆記試験 (180 分) 口述試験 (30 分)

2) 第 1 外国語(B 言語)及び第 2 外国語(C 言語)についての試験 (筆記試験は各 120 分計 6 時間)

会議テキストの翻訳 (B→A、A→B)

会議テキストの翻訳 (C→A)(ドイツ語を B 言語にしている学生は C→B ないしは B→C)

逐次通訳 (B→A、A→B)(各 10 分)

同時通訳 (B→A、A→B)(各 10 分)

逐次及び同時通訳 (C→A)(各 10 分)(ドイツ語を B 言語にしている学生は C→B ないしは B→C)

B 言語について文化事情に関する口述試験 (B 言語にて 30 分)

B 言語で書かれた言語学・翻訳学に関するテキストについての口述試験 (30 分)

C 言語について文化事情に関する口述試験 (ドイツ語にて 20 分)

3) 資格取得論文 (テーマ登録より 4 ヶ月以内に提出)

感想

通訳学の習得は「語学の習得」ではないという方針は極めて明確で、高度の外国語運用能力(かつ特に母語の運用能力)を学修の前提としている。外国語能力が高いというだけでは通訳ディプロームの資格取得は保証されず、実際に入学者のうち最終的に資格を取れるのは半数を大幅に下回っている。